

# 日遊協、台湾で「認知症予防」共同研究

## 庄司会長、台南市で正式調印

### 嘉南薬理大 樹河社会福利基金会と



調印式を終えてほっとした表情の（左から）庄司孝輝会長、陳銘田校長、郭吉仁執行長

日遊協と台湾の嘉南薬理大学及び樹河社会福利基金会の3団体は10月12日、台湾台南市の同大学本部で「パチンコ・パチスロ・トレパチの共同研究事業契約書」に調印した。調印式には庄司孝輝日遊協会長、陳銘田同大学校長、郭吉仁同基金会執行長が出席した。日遊協からは薛博夫社会貢献・環境対策委員会委員長、茂木欣人風営法PTリーダーも同席した。

契約書によると、目的は日本で使用されている遊技機（パチンコ・パチスロ・トレパチ）が認知症予防に効果があるか、台湾の高齢者施設（老人ホーム、認知症施設）で活用できるか——を共同で調査・研究するとしている。

#### トレパチなど提供し 高齢者施設でテスト 成果は3団体で共有

使われる遊技機は、パチンコ2

台（京楽産業（株）のちよいパチA、B、マルホン工業（株）のちよいパチシヤカンナー）、パチスロ4台（株北電子のジャグラー）、トレパチ4台（豊丸産業（株）の福祉向けパチンコ）の計10台。足こぎ型の特別仕様機も含まれている。貸出期間は9月1日から来年8月31日まで1年間。この間、同大学と同基金会には遊技機を使って自由に調査研究してもらい、高齢者施設で認知症テストを実施し、老人の反応、使い方などをレポートする。研究成果は契約した3団体で共有する。

使用される10台はさる7月下旬から8月はじめにかけて同大学に輸送され、大学研究室と市内の老人ホームに取り付けられた。取り付け後に日本側の、社会貢献・環境対策委員会のメンバーから遊技機のメンテナンス、遊び方などが説明され、老人ホームでは早くも簡単な認知症テストも行われた。

日遊協と同大学の交流は、昨年11月に社会貢献・環境対策委員会メンバーが大学を訪れて、遊技機による認知症予防で意見交換したことから始まった。同大学には老人服務（サービス）事業管理学科があり、学内のリハビリトレーニング

◀関係者のアドバイスを受けてジャグラーにチャレンジ



足こぎ仕様機を見守る関係者も興味津々



契約書にサインする庄司会長と嘉南薬理大の陳校長（中）、樹河社会福利基金会の郭執行長（右）



施設、健康診断施設、天然温泉施設、認知症ケアのゲームを制作する教室などがある。大学側は日本でパチンコ・パチスロが介護事業に活用されていることに興味を示し、遊技機を使った認知症予防の効果を共同研究する今回の企画が持ち上がった。

10月12日の調印後、庄司会長が地元記者との会見で行ったあいさつ要旨は次の通り。

#### 「研究結果が 楽しい」 庄司孝輝会長が会見

「パチンコとパチスロは日本で大衆娯楽として親しまれていま

す。日遊協はパチンコとパチスロに関わる事業者で

構成された業界唯一の横断的組織で、来年設立30周年を迎えます。30周年という節目に、海外の大学でパチンコとパチスロの効果について検証できることは大変にうれしく、研究結果について楽しみにしています。

パチンコとパチスロは、日本では高齢者の方々にも親しまれています。遊技機の光や音、演出等の刺激により、脳の認知機能に効果があると認められ、体力の差異なく、気軽に、ひとりで楽しめることから、遊技場だけでなく、老人ホームにも多く設置されています。超高齢化が進む日本社会において、社会に貢献できる産業であると自負しております。

台湾だけでなく、国民の高齢化が社会問題となる国が増えていると聞いています。このような研究を進めていく中で、日本独自のパチンコとパチスロがリハビリ器具として改良され、国際貢献することができるとあれば、これは大変うれしいことです。今回のような海外での研究は、海外の方々にはパチンコ、パチスロを知っていただく良い機会になるとも考えています」